

## 「平和の王」

### イザヤ書11章1～10節

イザヤは、「エッサイの株から芽が出る」と語ります。切り倒され、もう終わったかに見える“残骸”からです。まるで夜のうちに土の下で準備を整え、誰にも気づかれないうちに、朝の光に向かって顔を上げたようにです。閉ざされたと思った扉の下に、ほんのわずかな隙間から光が差し込んでくるようなときです。

神の希望は、人間の見込みとはずいぶん違うところから始まります。イザヤが描く平和の姿は独特です。狼と小羊がともに草原で横になる。豹と子やぎが同じ場所で眠っている。動物園でそんな光景を見たら職員が飛んでくるでしょう。子羊が危険だからです。しかしこれは、神の支配が実現するときの“関係の回復”の象徴です。(それに、狼も、もし子供の頃から人間に育てられ、羊と一緒に生活していれば羊を襲いませんよね。羊の面倒をみているかもしれない。)これは寓話ではなく、神の支配が到来するときの“関係の回復”の絵なのです。人間関係のこじれ、社会の分断、心のささくれ—そこに神は調停者として立ち、あり得ない和解を実らせる。私たちの教会や家庭の中にも、ほんの小さな“和解の芽”が忍び寄っています。

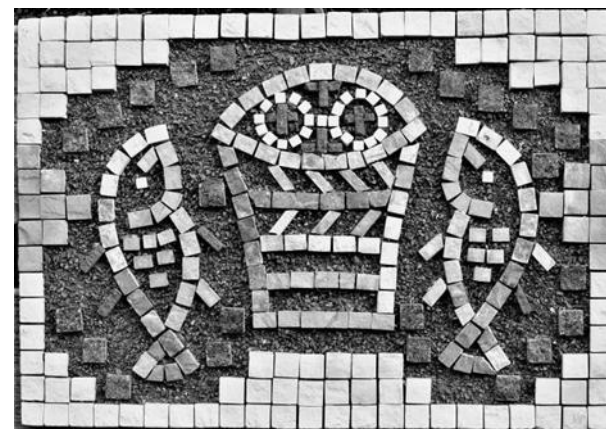
アドベントの2週目。

「切り株から芽が出る」ように、静かに、気づかれぬうちに、神の平和は始まっています。私たちの心の中にも、同じように芽が伸びようとしています。「和解してみようか」「祈ってみようか」「もう一度信じてみようか」そんな小さな思いは、ただの気まぐれではありません。平和の王がそっと触れてくださったサインなのだと思います。その小さな芽を大切にしながら、主の来られる道をゆっくり整えていきましょう。冬の冷たい空気の中にも、平和の神は確かに近づいています。

日本キリスト教団 浦河教会

# 週 報

No. 36 2025 年 12 月 7 日



〒057-0022 北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32

伝道師 大槻茂勝

090-9716-1353

2025 年 12 月 7 日 (No.36)

降誕前第 3・待降節第 2 主日礼拝

司会 半田かおる・奏楽 松村 宣恵

ぜん そう いち どう  
前 奏 一 同  
さんびか いち どう  
讃美歌 一 同  
いの し かいしゃ  
祈 り 司会者  
せい しょ しょう せつ し かいしゃ  
聖 書 イザヤ書 11章 1～10節 司会者

(旧約聖書 1078 頁)

さんびか いち どう  
讃美歌 2 4 2 (1・2 番) 一 同

せつ きょう ぼく し  
説 教 「平和の王」 牧 師

さんびか いち どう  
讃美歌 2 3 6 一 同

けんきん かんしゃ いの いち どう  
献金 と感謝 の祈り 一 同

しゅ いの いち どう  
主の祈り 6 2 一 同

しょう えい いち どう  
頌 栄 キリストの平和が (1, 5) 一 同

しゅく とう ぼく し  
祝 祷 牧 師

ほう こく  
報 告

あた たら こ かつ ひさ かつ しょうかい  
新しく来られた方・久しぶりの方の紹介

【今週の集会】

◇一緒に聖書を読み祈る会

12 月 10 日 (水) 19 時 於 礼拝堂

〈コヘレトの言葉 5 章 12～19 節〉旧約 1040 頁

讃美歌 2 6 1 番・4 1 9 番

【次週の予定】

◇主日礼拝 (アドベント第 3 週)

12 月 14 日 (日) 14 時

聖書 詩篇 1 2 6 篇

讃美歌 2 4 2 (1・2・3 番) ・2 3 1

◇一緒に聖書を読み祈る会

12 月 10 日 (水) 19 時 於 礼拝堂

〈コヘレトの言葉 5 章 12～19 節〉旧約 1040 頁

讃美歌 2 6 3 番・4 3 3 番

【来週の礼拝 司 会者を決めましょう】

①山本充枝 ②内村直人 ③半田かおる

④伊藤知之 ⑤山根耕平 ⑥岸澤恵美

⑦高崎 晋 ⑧早坂 潔 ⑨荻野 仁

⑩和田智子 ⑪吉田公子 ⑫大矢英明

【集会統計】

集会名	出席者	献金
主日礼拝 (11月30日)	11 名	13,221 円
祈祷会	3 名	
(12月3日)	讃美歌258・264	

・頌栄 キリストの平和が

1. キリストのへいわが  
わたしたちのこころのすみ  
ずみにまで 行きわたりま  
すように

5. キリストのゆるしが  
わたしたちのこころのすみ  
ずみにまで 行きわたり  
ますよう